

day: 2022.Nov.9 Wed.-11 Fri./ open: 19:00/ place: CAVE-AYUMIGALLERY

ARTS2
ARTS for the future ▶ 2

Osamu Kanemura
金村修

1964年東京都生まれ。写真家。1989年、東京総合写真専門学校在学中の1992年、オランダの写真展「ロツテルダム・フォト・ビエンナーレ」に作品が選出される。1993年、東京総合写真専門学校卒業。同年、最初の個展を開催。1995年、写真集『Crash landing』刊行。1996年、ニューヨーク近代美術館(New Photography12)に、「世界に注目される6人の写真家」の中のひとりとして選ばれる。1997年、東川町国際写真フェスティバル新人作家賞受賞。2000年、土門拳賞受賞。2014年伊奈信男賞受賞。主な写真集に『Happiness is a Red before.』(2000)、『SPIDER'S STRATEGY』(2001)、『I CAN TELL』(2001)、『In-between 12 金村修 ドイツ、フィンランド』(2005)、『ECTOPLASM PROFITING』(2014)、『CONCRETE OCTOPUS』(2017)、『Lead-palsy Terminal』(2021)ほか。著書に『漸進快楽写真家』(2009)、『挑発する写真史』(タカザワアーツとの共著、2017)、映像論集『Beta Exercise: The Theory and Practice of Osamu Kanemura』(2019) ほかがある。

Hiroko Komatsu
小松浩子

1969年神奈川県生まれ。2009年の初個展以降、国内外で個展、グループ展多数。2010～2011年、自主ギャラリー・プロイランスペースを主催、毎月個展を開催。2015年、ドイツのフォトフェスティバル「The 6th Fotofestival」で発表された作品が、イタリアのMAST財団に収蔵される。2017年、「人格的自律処理」(ギャラリーαM)と、イタリアのMAST財団の「THE POWER OF IMAGES」の展示作品「The Wall from 生体衛生保全」により第43回木村伊兵衛写真賞を受賞。2019年に「DECODE/出来事と記録-ポスト工業化社会の美術」(埼玉県立近代美術館)に出品。2021年、ニューヨークのdieFirmaで個展「Sincerity Department Loyal/Division」を開催。ドイツ美術館(ウエルズリー大学内)で個展「Creative Destruction」を開催。2022年、The Joseff Gallery(ハートフォード大学内)で個展「Second Decade」を開催中。写真集に『Channeled Drawing』(MAN CAVE) ほかがある。

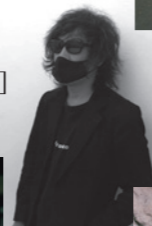
Koji Nakamura
ナカコー

1995年地元青森にてバンド「スーパーカー」を結成し2005年解散。その後「ILL」として活動する。現在はバンド「LAMA」(フルカワミキ、田淵ひさ子、牛尾憲輔)や、ダークロックユニット「MUGAMICHILL」(ナスノミツル、中村達也、ナカコー)そして「Koji Nakamura」としてのソロ活動も継続している。コンポーザーとしては自身の活動の他にアニメ「エウレカセブンAO」や連続TVドラマ「潤一」・「WOWOWオリジナルドラマ アフロ田中」等のメインテーマと劇伴音楽も担当している。その他、CM曲やアート展、携帯端末の操作音などの楽曲制作、Eテレの子供番組や国民的アイドルへの楽曲提供等活動は多岐にわたる。そして2017年より duenn とともに、アンビエントに特化したプロジェクト「HARDCORE AMBIENCE」も主宰。ある場所や空間に寄り添える音楽を言及・指向したアンビエント音楽を映像やLIVEなどで提案・発表し多数の美術館や芸術家とコラボしている。

Takuro okada
岡田拓郎

1991年生まれ。音楽家。2012年にバンド「森は生きている」を結成、「グッド・ナイト」をリリース。2015年のバンド解散後は、シンガー・ソングライターとしての活動、環境音楽の制作、即興演奏、他のミュージシャンのプロデュースやエンジニア、演奏者として数多くの作品やライブにも参加している。ギター、ペダルスティール、シンセなどの楽器を演奏する。2022年8月にアルバム『Betsu No Jikan』をリリース。

[ARTIST PROFILE]



Miki Furukawa
フルカワミキ

1995年地元青森にてフルカワのバンド募集の張り紙をきっかけにバンド「SUPERCAR」を結成。1997年にメジャーデビュー。2005年解散後、2006年にソロ活動をスタート。ソロ活動の他に、バンド「LAMA」(Koji Nakamura、田淵ひさ子、牛尾憲輔)や「フルカワミキ&ユザン」としても活動。ベース&ヴォーカル、コンポーザーとして、その存在感は比類なきものとして評価され、自身の活動だけに留まらず多くのアーティストの作品に参加している。また、自身のパーソナリティを活かし、その活動は音楽的フィールドだけでなく、CMやアート、ファッションの分野に渡り、自身のWEBショップのディレクターとしても活動している。

duenn

福岡市在住。エレクトロニクス/コンポーザー。必要最小限の機材で、ミニマルな作品を制作。国内外のレーベルより多数の作品をリリース。ナカコーこと Koji Nakamura と「HARDCORE AMBIENCE」共催。

Yoshio Otani
大谷能生

音楽/批評。サックスその他。アルバム『Jazz Modernism』(Black Smoker Rec)。新刊は『歌というフィクション』(月曜社・2023/1月発売予定)。



2022.
Nov.
9 Wed. -
11 Fri.

世界
C
A
V
E
の
世
界
B
L
I
N
K
O
F
T
H
E
W
O
R
L
D
の
世
界
W
H
I
S
P
E
R
O
F
T
H
E
W

ABSTRACT SOUND & ALTERNATIVE IMAGE FROM ANOTHER WORLD.

洞窟化した世界を開き世界と出会い直すための奇跡の一夜

day: 2022.Nov.9 Wed.-11 Fri./ open: 19:00/ place: CAVE-AYUMIGALLERY

MODULATED CAVE

WHISPER OF THE WORLD x BLINK OF THE WORLD
OPEN THE CAVE, RE-ENCOUNTER THE WORLD, MIRACLE NIGHT!

しかし、光が届かない暗闇にも、風は届く、音は振動として肌をなでるだろう。空気の振動として肌届けられる音を感じ、勇気を出して耳を開き、目を開く。その時、確かにあなたに届けられる、「世界のささやき」と「世界のまばたき」。洞窟化した世界を開き世界と出会い直すための奇跡の三夜が、CAVEを変調する。

岡田拓郎 + duenn, Koji Nakamura + フルカワミキ、大谷能生、音楽が耳を開く。空気の振動、電気の増幅、電子の変調、奏でられる音楽は「世界のささやき」。金村修、小松浩子、映像が目を開く、音と溶け合う映像は「世界のまばたき」。静寂、囁き、轟音、闇、光、像、速度、忘却、奇跡のような音楽と映像の邂逅。時空を超える変調されたCAVEに、世界と出会い直すことを希求する人々が集う。そこでは、私達が生を全うする世界が、未知の世界のように見えてくるだろう。その時、私達は、今日とは違う明日を、新たな生を、生き始めることができる。

コロナ禍で引きこもりを余儀なくされた人々は、洞窟に籠っているかのようだ。社会活動は停滞し都市は機能不全に陥り、世界全体が洞窟に籠っているようだ。世界全体が洞窟化し、暗闇では眼球を格納する眼窩そのものが洞窟化している。視聴覚を含め、感覚に反応する頭脳を格納する頭蓋そのものが洞窟化している。

新型コロナウイルス感染症の世界的流行は、人々の様々な活動に影響を及ぼす。芸術文化もその例にもれず、全てのジャンルの表現者がその影響を受けている。写真家にとっては撮影行為も展示活動も困難になり、厳しい状況が続いている。音楽家にとっては制作活動も演奏活動も困難になり、厳しい状況が続いている。それでも、優れた表現者は、この状況に、毅然と立ち向かい、柔軟に対応する。そして、時には、この状況を取って受け入れ、新しい表現活動を模索している。CAVEと命名された空間で、音楽と映像が、まるで初めてのように、出会い直す。

世界のささやき

世界が音で溢れているのは当たり前だと誰もが思っていた。コロナ禍でロックアウトされた世界は静寂に包まれていた。世界が静寂に包まれると世界に響いていた音が最初に戻る。風や水や生物の音など自然に存在する人類の登場以前の音。工場や交通機関や家電や電子機器など人類の登場以後の音。声や楽器や機材を駆使して人類が連続と生み出してきた音。コロナ禍を経験した人類が生み出す音楽の未来を想像する。静寂に包まれていた世界にはじめて響く音のような音楽を。世界がはじめて奏でる「世界のささやき」のような音楽を。

世界のまばたき

世界に光が溢れているのは当たり前だと誰もが思っていた。コロナ禍でロックアウトされた世界の夜は暗闇が支配した。世界の夜が暗闇に支配されてしまうと光と像が最初に戻る。太陽や星月の輝き水面に映る像など人類の登場以前の光景。家や高層ビルや道路や交通機関など人類の登場以後の光景。カメラや機材を駆使して人類が連続と生み出してきた映像。コロナ禍を経験した人類が生み出す映像の未来を想像する。暗闇に包まれていた世界にはじめて届く光のような映像を。世界がはじめて届ける「世界のまばたき」のような映像を。

[MODULATED CAVE TIME TABLE]

- Nov.9 Wed. 演奏: 岡田拓郎 + duenn
映像: 小松浩子 Silent Sound (2020) 15:16 / 金村修 Z-Trash Diary 2021 (2022) 1:08:54
- Nov.10 Thu. 演奏: Koji Nakamura + フルカワミキ
映像: 小松浩子 人格的自律処理 (2017) 10:05 生体価格保証 (2019) 7:28
金村修 Topless Beaver Drive (2019) 11:47 Catle Mutilation (2019) 12:34
Aseptic Room Service (2019) 11:45 Physical Psycho Education (2019) 9:48
- Nov.11 Fri. 演奏: 大谷能生
映像: 小松浩子 Slide Show (2019) 8:18 / 金村修 Success Steroid (2022) 21:58 Sexual Gas Mask Healing (2022) 21:31

[INFORMATION]

会場: CAVE-AYUMIGALLERY 東京都新宿区丸末町1-4 高輪ビル B2
日時: 2022年11月9日~11日 19:00 開場 19:30 開演
前売券 2500円 (ワンドリンク付) 当日券 2500円 + ドリンク
主催: Modulation 8
予約: <https://modulation8.stores.jp/>

